

# ヤンバルクイナの道路出現状況に関する調査研究

(社) 沖縄建設弘済会 技術環境研究所 ○川上新

## 1. 目的

ヤンバルクイナはツル目クイナ科に属し、沖縄島北部の森林地域（やんばる）にのみ生息する固有種であり、国指定天然記念物、国内希少野生動植物種等に指定されている貴重種である。本種の生息は危機的状況にあり、その影響要因の一つである交通事故は近年増加傾向にある。この様な状況を受け、当研究所では平成20年4月から国頭村安田区と協働で「ヤンバルクイナ等道路出現調査（以下、道路調査）」を行ってきた。

本研究は、平成20年度に実施したヤンバルクイナ等道路出現調査等の結果について取りまとめるとともに、今後のヤンバルクイナの交通事故防止に向けた調査研究について検討する。

## 2. 内容

道路調査は、国道58号線（0.0～6.6kp（キロポスト））、県道70号線（0.0～17.5kp）、県道2号線（0.0～16.3kp）の3区間について、平成20年4月1日から平成21年3月27日にかけて、4月から6月は毎日、7月以降は週2回実施した。調査は日の出から約3時間程度、車両により調査区間を踏査し、ヤンバルクイナが確認された場合は、個体数、時刻、地点等について記録した。現地調査員は安田区住民より募集し、調査の指導およびデータ解析等については当会で実施した。

その他、補足調査としてヤンバルクイナ出現多発箇所における日の出から日没後の道路への出現調査（以下、定点調査）を平成20年6月から3月にかけて、月1回実施した。

## 3. 結論

道路調査については、165回実施した結果、延べ1320個体のヤンバルクイナを確認した。調査区間別では、県道70号が1095個体と最も多く、ついで県道2号（196個体）、国道58号（29個体）の順であった。ヤンバルクイナの道路への出現は4月から6月にかけて増加し、7月以降は徐々に減少したもの、冬季においても10個体前後確認される日があった。

定点調査の結果、延べ116個体のヤンバルクイナが確認され、6月が最も多く（77個体）、7月以降は急速に減少した。日中における出現は、朝および夕方の1～2時間に集中していた。その他、道路に出現した個体は、採餌、羽づくろい、鳴き交わし、交尾等、多様な行動が確認され、道路を生活の一部として利用していることが示唆された。

## 4. 今後の問題点

今回の調査結果から、ヤンバルクイナの道路への出現状況については明らかになってきた。しかし、交通事故の発生要因である車両の状況や出現箇所および事故発生箇所などの環境条件等については不明な点が多い。今後は、これら車両状況や環境条件等に関する調査を行う必要がある。